
東日本大震災 医療支援 「こころのケアチーム」 第18班 活動報告

派遣期間: 7月5日(火)～7月8日(金)

櫻井 秀樹(医師)

榎本 恵子(看護師)

桑田 美子(臨床心理士)

第18班 活動の概要

1. ケースや業務の引継ぎ（第17班および、着任前日の沖縄チーム撤退による業務の引き受け作業）
2. 地域の支援力への働きかけ（保健師チームとの意見交換を通してのコンサルテーション）
3. クールの節目にあたることから、今後の支援活動を円滑に進めるためのひな型の作成と環境整備

第18班 活動の具体的内容

- 第17班からの活動引継ぎ
- 沖縄チームからのケースの引継ぎ
- 沖縄チームからの相談業務の引継ぎ（木曜午後「こころの相談室」の実施）
- 保健師チームとの情報交換、および意見交換を通してのコンサルテーション
- カルテおよび相談記録の整理作業
- 記録全般に関する手順書とマニュアルの刷新
- 現地使用車の車内整理

活動経過 第1日目

7月5日(火)

- 移動:東京(10時発)～水沢江刺(13時半着)～大船渡
- 16:00-17:30 於:合同庁舎 県の保健師より
沖縄チームからのケースの申し送り、および「こころの相談室」業務の引継ぎ、現地の近況や職員へのサポートの必要性についての説明を受け、今後の支援活動の方向性についての意見交換を行った。
- 復興状況について大船渡～陸前高田を視察

活動経過 第2日目

7月6日(水)

[午前]

- 市保健師チームとのケースに関する打ち合わせ(意見交換を通してのコンサルテーション)
- 継続ケースの訪問 1件
- // TELフォロー 1件

[午後]

- 沖縄チームからの引継ぎケースの訪問 2件
- 定例のミーティングに参加

活動経過 第3日目

7月7日(木)

[午前]

- 継続ケースの訪問 2件

[午後]

- 合同庁舎にて「こころの相談室」初回 相談0件
- 県 保健師へ書類関連の確認TEL
- 保健介護センター(総合福祉センター内)にて記録作成、その際、保健師チームとの情報・意見交換(ケース依頼2件、コンサルテーション1件)



活動経過 第4日目

7月8日(金)

[午前]

- 新規ケースの訪問 1件(保健師との同行)
- 保健介護センターにて記録作成、カルテ整理、車内清掃

[午後]

- 保健介護センターにて県と市とのミーティング予定で待機していたが、参集されず
- 移動:大船渡(14時半)～水沢江刺(17時発)～東京 20時解散

ケースのまとめ

	訪 問	継 続	新 規
主 訴	アルコール	1件	1件(沖)
	不 安	1件	
	不 眠	1件	1件
	抑うつ	(TELフォロー 1件)	1件(沖)

(沖)...沖縄チームからの引継ぎケース

コンサルテーション(保健師チームへ)		
内 容	不安の高い人への接し方	1件
	ケースとの関わり方	1件
	リファーマーのタイミング	1件

第18班が活動にあたって留意したこと

■ 時間縮小への対応

沖縄チームの業務を引き継ぐことによる実動時間の縮小(新たに「こころの相談室」を担当し、担当地域も拡大)→訪問時のアポの取り方を工夫

■ ケースをいずれ地域に委ねてゆく下準備として

保健師チームとの意見交換を重視→対応の仕方の確認や、見立てのフィードバックを丁寧に

■ 書類管理業務の煩雑さへの対応

着任当初からスムーズに業務に当たれるよう、各種ファイルを整理、記録書類に関するマニュアルの刷新、車内環境整備の実施

第18班 活動を通しての考察

- 保健師チームからケースを受ける際の意見交換とフィードバックの重要性(アルコール関連のケース)
- いわゆる慢性期に入り、一見落ち着いてきたことによる影響への留意の必要性(ケースの周辺を視野に入れた見立ての重要性、対応ケース以外の各種スタッフへのさりげないサポートの必要性)
- 病院での診療と異なり、“皆が大変な時だから”と不要な遠慮が生じやすいケースへの配慮
- 派遣日程の短縮化やミーティング回数の減少による意見交換の場の縮小に対し、保健師チームとの接点確保の重要性→毎夕、保健介護センター立寄り